



リリカルマジカル
ヴィータがんばる

恋愛漫画家 成年向



手に取っていただきまして
ありがとうございます!!

この本、実は夏コミ発行予定でした。
ですが、本来予定していた「フェイトがんばる」が予定よりも中身が増えてしまい
締め切りに間に合わせるのが難しそうになり、逆にそれを夏コミに回す事にして、
オンリーでこの本を出す事に。
まあこの本は書店委託の予定もなく、イベントで出し切るつもりだったので、
こっちをオンリーにした方が、よりイベント限りのお祭本っぽく出来て良かったなど。

この本に載せた話はページ数の少ない小ネタですが、これの続きで書きたい
ヴォルケンリッター話もあつたりします。
あとは、高町家関連でとらハ3本編（SSF）と絡めた話とかもちょこつと。
書く機会があればいいなあ。

ではでは、短めの話ですが。
楽しんでもらえると嬉しいです。

制作
恋愛漫画家

発行日
2006年7月2日

印刷
Power Print

連絡先
hironasu@mud.biglobe.ne.jp

HP
<http://www.renai-manga.com/>

無断転載・複製はお止めください



んー…

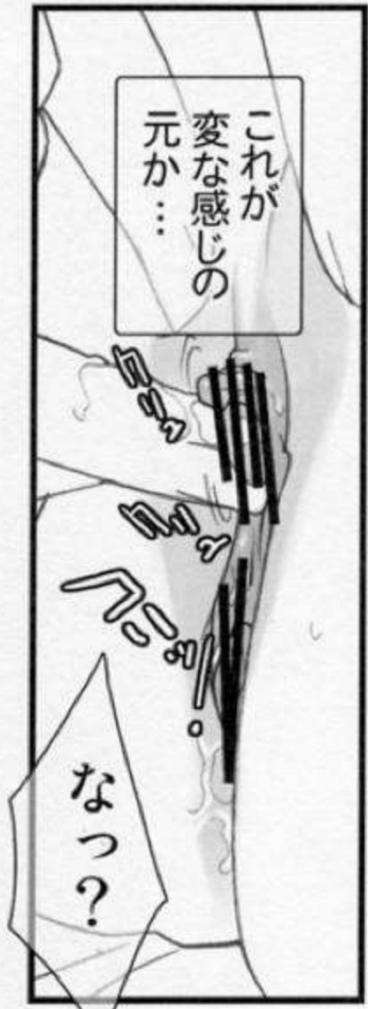
何だよ…
全然
気持ち良く
ねーじゃ…ん？

あ…こゝだ
なんか変な感じ…

ん…？
何か
出っ張りが…

これが
変な感じの
元か…

なっ？

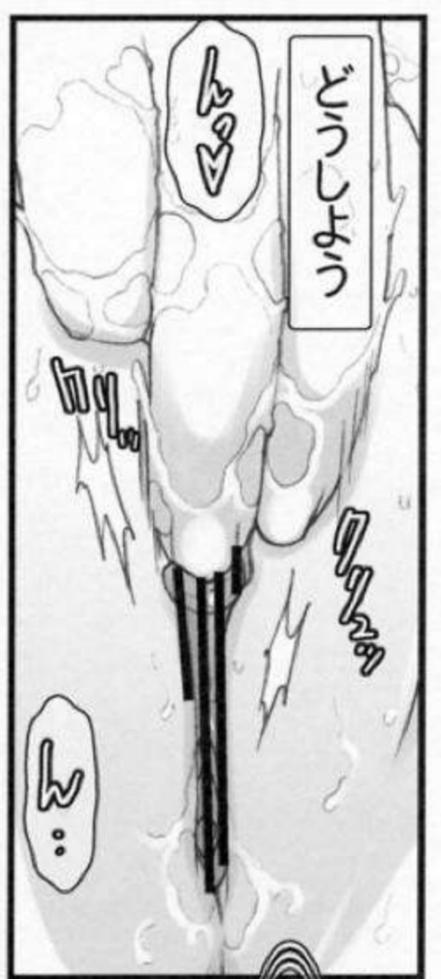


ちよつと今
ピクンって
なったな…

何だろ…
おしっこしたく
なるみたいな
でもちよつと
違うみたいな…

びびび…
びびび…
ピククリ
したあ…







はやて...っ！



ゴメン
はやて...

もしかしたら
もう
駄目かも
しんない...

あたし...
おかくく
なうちまった
みたいだ

きつとまた
これ
したくなる...
バカみたいにな
りながら

やっぱ
嫌われる
かな...

でも...
そうだったって

大好きだよ
はやて...

「アホやなあ…
うちが
大好きな
ヴィータの事
嫌うわけ
あらへんやんか」

「…ホント？」

「もちろんや！
それにな
アレは
年頃になったら
男も女も
みんなする事
なんやから
したなったら
いつでもしてええよ」

「そっか…
分かった」

「それにしても…
不注意すぎるぞ
シヤマル」

「あーん
ゴメンなさい」

「ふふふ
ヴィータももう
立派な女の子やね」

「うう…何か恥ずかしい」

「照れること無いよ！
でもきつと
してる時のヴィータは
めっちゃ可愛いんやろな」
「…今度見してくれる？」

「…はやてが
一緒にしてくれんなら」

「うん♡」



後日談。

「おい、なのは」
不意にに呼び止められる。

そこにいたのはヴィータちゃん、
周りを見回してそつと囁いてきた。

「お前…『おなにー』知ってるか？」

…いきなりだね、ヴィータちゃん。
何やら胸を張って得意げだ。

「まあ一応は…」

「…何だよつまんねー」
興味がなくなつたみたいだ。

が、しかし。

「アッってセックスと違う
気持ち良さが有るもんね」
と言うと、いきなり顔色が変わつた。

「お、おま、した事あんのか？」

…失言だったかも。

「アハハ…」と笑つてごまかしてみる。

「…こ、これで勝つたと思うなよー！」

元気に駆け回るヴィータちゃんは
可愛いな、と思うわたしなのでした。



リリカルマジカル
ヴァイタ
がんはる

恋愛漫画家